

# 「総合」と思考をめぐる 一考察

「総合的な探究の時間」と  
フランスの哲学教育

坂本尚志  
tskmt@mb.kyoto-phu.ac.jp

## 本日のお話のベース (1)



坂本尚志『バカロレアの哲学—  
「思考の型」で自ら考え、書  
く』日本実業出版社、2022年

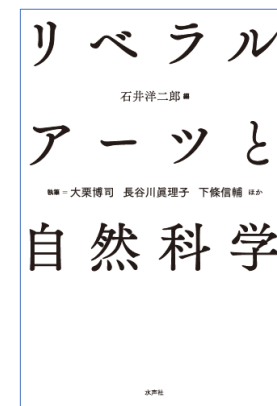
## 本日のお話のベース (2)



伊藤実歩子編『変動する総合・  
探究学習 欧米と日本 歴史と  
現在』大修館書店、近刊

本所恵「序章 今ここにある  
「総合」を確かめる 1980年代  
以降の学習指導要領より」  
中西修一郎「第3章 日本の総合  
教育の履歴 生活に根差したカ  
リキュラムの探求」  
坂本尚志「哲学教育はなぜ総合  
学習なのか フランスの中等教  
育における「体系」の再構築」

## 本日のお話のベース (3)



石井洋二郎編『リベラルアーツ  
と自然科学』水声社、2023年  
坂本尚志「なぜフランスの理系  
エリートには一般教養が必要な  
のか？」

## 報告の目的

- 高等学校における「総合的な探究の時間」について、フランスの哲学教育との比較を通じて考える
- どちらも教科・科目の枠を超える横断的な学習を志向しつつも、その「総合」のスタイルはまったく異なっている
- その違いとはどのようなものか？なぜこのような違いが存在するのか？こうした違いを踏まえて見えてくるものは何か？

## 報告の構成

1. 日本の高校における「総合的な探究の時間」
  1. 学習指導要領における「総合」の位置づけ
  2. 高校における総合的な探究の前史と課題
2. フランスの哲学教育
  1. 目的、方法、評価
  2. 総合学習としての哲学教育
  3. 哲学教育の「失敗」と「一般教養」
3. 日仏「総合」比較

## 「学習」から「探究」へ（本所2023）

学習指導要領における「総合」

- 1989年改訂 小学校低学年への「生活科」導入
- 1998年改訂 「総合的な学習の時間」創設
  - 2002年度より小中学校で全面实施
  - ゆとり教育批判：2003年学習指導要領一部改正（「確かな学力」育成）→2007年改訂：総合的な学習の授業時数減少、ただし章立ての上では各教科と同列とされ、「探究的な学習」であることが目指される
- 2018年改訂（高校） 「総合的な探究の時間」への変更

## 「総合的な探究の時間」

- 総合的な探究の時間の特質（文部科学省 2017）
  - 1 「探究が高度化し、自律的に行われること」
  - 2 「他教科・科目における探究との違いを踏まえること」

高度化

- ①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）、②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）、③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）

自律化

- ①自分にとって関わりが深い課題になる（自己課題）、②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる（運用）、③得られた知見を生かして社会に参画しようとする（社会参画）

## 高校における総合的な探究の前史と課題

- 農業、工業、商業等の専門学科における「課題研究」科目  
(1989年学習指導要領改訂で設定)
- 総合学科 (1994年導入) における「産業社会と人間」科目
- スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) (2002年開始)
- スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH) (2014年開始)
- 課題：テーマ設定、指導、評価

他国の事例はどうか？ → フランスの哲学教育

## フランスの高校における哲学教育： 目的と方法

- 教育目的  
「他科目で得た知識へ開かれ、それら他科目と結びうる多様な関係へと開かれている哲学教育は、疑問を持ち、真理を探究することへの配慮、分析する能力、思考の自律性を生徒のうちに育てることを目指している。それらなくしては現実の複雑さを知ることはできないであろう」  
(国民教育省哲学教育プログラム)
- 1週あたりの授業時間
  - 4時間 (+ 選択科目「人文学・文学・哲学」2年生4時間、3年生6時間)
- 授業内容
  - 哲学の教授資格を持った教員が担当し、さまざまな哲学的主題の扱い方、それに関する哲学者たちの主張を学ぶ
  - 学習成果はディセプション (小論文) やテキスト説明の練習により評価 (一年間の継続した練習)

## 哲学教育の内容 (1) : 3つの視点

1. 人間存在と文化
2. 道徳と政治
3. 知識

次に見る17の観念は、これら3つの視点を考慮しつつ、多角的に考察されねばならない

例) 芸術/技術

道徳的考察、認識論的考察だけでなく、人間存在と文化におけるそれらの位置についての考察も必要

## 哲学教育の内容 (2) : 17の観念

芸術	幸福	意識
義務	国家	無意識
正義	言語	自由
自然	理性	宗教
科学	技術	時間
労働	真理	

## 哲学教育の内容(2) 著者

時代	著者
古代 中世	ソクラテス以前の哲学者たち、プラトン、アリストテレス、荘子、キケロ、ルクレティウス、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス、ナーガールジュナ、セクストス・エンペイリコス、プロティノス、アウグスティヌス、アヴィセンナ、アヴェロエス、マイモニデス、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム
近代	マキャベリ、モンテーニュ、ベーコン、ホブズ、デカルト、パスカル、ロック、スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ、ヴィーゴ、パークリ、モンテスキュー、ヒューム、ルソー、デイドロ、コンディヤック、スミス、カント、ベンサム
現代	ヘーゲル、ショーペンハウアー、コント、クルノー、フォイエルバッハ、トクヴィル、ミル、キルケゴール、マルクス、エンゲルス、ウィリアム・ジェームズ、ニーチェ、フロイト、デュルケーム、ベルクソン、フッサール、ウーバー、アラン、モース、ラッセル、ヤスパース、バシュラール、ハイデガー、ウィトゲンシュタイン、ベンヤミン、ポパー、ジャンケレビッチ、ヨナス、レイモン・アロン、サルトル、アレント、レヴィナス、ボーヴォワール、レヴィ=ストロース、メルロ=ポンティ、ヴェイユ、エルシュ、リクール、アンスコム、マードック、ロールズ、シモンドン、フーコー、パトナム

## 哲学教育の内容(3) 手がかり

絶対的/相対的 - 抽象的/具体的 - 現実態/可能態 - 分析/総合  
 - 概念/イメージ/メタファー、偶然的/必然的- 信じる/認識する - 本質的/偶有的 - 事例/証拠 - 説明する/理解する - 事実上/権利上 - 形相的 (形式的) /質料的 (物質的) - 類/種/個体  
 - 仮説/結果/結論 - 観念的/現実的 - 同一/平等/差異 - 不可能/可能 - 直観的/論証的 - 合法的/正当な - 間接的/直接的 - 客観的/主観的/間主観的 - 義務/制約 - 起源/基礎 - (論理的に) 説得する/ (感情的に) 納得させる - 原則/原因/目的\* - 公的/私的 - 類似/類比 - 理論/実践 - 超越的/内在的 - 普遍的/一般的/個別的/個体的 - 真正の/蓋然的な/確実な

## 重要なのは「型通りの方法」：問題分析

1. 問題文の用語・概念の分析
2. 問題に対する可能な答えを列挙する
  - 肯定と否定
  - 両者を止揚した第三の答え
3. 問題を「問いの集まり」に変換し、問題の含意を明らかにする
  - 「なぜ」「どのように」「仮に~ならば」「いかなる条件で」などの言葉を用いて、問題を複数の問いに言い換える

## 重要なのは「型通りの方法」：弁証法的構成

- 導入
  - 問題分析を踏まえ、言葉や概念を定義し、可能な答えを示し、問題を言い換えつつ議論の内容を予告する
- 展開 (2~3つの部分から成る)
  - 各部分が「肯定」「否定」「両者の総合」(正反合)を扱う
- 結論
  - 展開部分での議論を要約して問いに答える

## 正確な引用を「暗記する」こと

- 哲学的典拠の正確な引用が重要
- 「アリストテレスが『ニコマコス倫理学』でこう言った」では不十分。「アリストテレスは『ニコマコス倫理学』第10巻第7章においてこう言った」と書かねばならない
- ただし、引用が適切な文脈の中でなされ、その含意が説明されていることが不可欠
- 「**暗記科目**」としての側面

## バカロレア哲学試験:哲学教育のゴール

- フランスのバカロレア試験（中等教育修了資格兼大学入学資格）の一科目
- 高校最終学年の6月に実施
- 試験は**記述式**、試験時間は**4時間**
- **ディセルタシオン**と呼ばれる小論文2題と**テキスト説明**とよばれる哲学書の抜粋の説明1題から1問を選択して解答
- 出題・採点は高校教員によって行われる

## 2022年の問題

1. 芸術の実践は世界を変容するか？
2. 何が正しいかを決めるのは国家なのか？
3. クールノー『われわれの認識の基礎と哲学的批判の諸特徴に関する試論』（1851年）の一節を説明せよ

## 哲学教育とバカロレア哲学試験

- 哲学教育によって学ばれる「**思考の型**」を活用する能力を評価する試験であり、創造性や文才を問う試験ではない  
→「型」を遵守した上で、どれほど論理的に解答できているかが評価の対象
- 決まった「型」にはめ込む形で自分の考えを表現する訓練  
→「**市民**」としての必須のスキルの育成

## 哲学はいかに総合するか？

- 芸術は科学よりも必要性が劣るか？（2011年、フランス本土、経済社会系）
- 言語は真理の探究の障害となりえるか？（2001年、インド、経済社会系）

## 芸術は科学よりも必要性が劣るか？

- 「**芸術**」、「**科学**」、「**必要性**」という用語の定義
- 「芸術」、「科学」についての初中等教育で獲得した知識に基づきつつ、両者の関係を「必要性」という概念によって考察することが求められる
- 「芸術は科学よりも必要性が劣る」（賛成意見）、「芸術は科学よりも必要性が劣るわけではない」（反対意見）を踏まえて、可能ならば両者を統合する第三の立場を提示する

## 言語は真理の探究の障害となりえるか？

- 「**言語**」「**真理**」「**障害**」
- 言語：個別言語ではなく、総称としての言語。人工言語も含む
- 真理：現実との一致？命題の論理的整合性？直観？
- 障害：両者の関係性を記述。どのような条件のもとで「障害となりえる」のか？

## 哲学教育は「よき総合学習」か？

- 哲学科目の平均点は20点満点中7点であり、他科目と比べて4点程度低い。また、**合格点（10点以上）を取る答案は全体の3割以下**（Ferry et Renault 1999）。
- バカロレア哲学試験受験者は同年齢人口の60%弱（日本の大学進学率とほぼ同等）  
→ここから考えると「**哲学ができる生徒**」は同年齢人口の**18%にも満たない**
- 全体の7割以上が合格点に達しない試験を最終的なゴールとする哲学教育...  
→「看板倒れ」なのか？



## 教養の危機と「一般教養」

- 高等教育における「総合的な知」  
エリート養成校グランゼコール（理科系、商業系）の入学試験、上級公務員採用試験
- 「一般教養」科目が課される：「政治、経済、文化等にまたがる歴史的知識や、現代社会における諸問題に関する知識を基礎として、哲学が提起する問いよりも広く、かつ具体的な諸問題について考えること」が必要とされる（坂本 2023）
- ⇒ グランゼコール準備学級（バカロレア後の2年間の課程）では、こうした試験に挑むための「教養」を身につけることが期待されている（膨大なインプットとアウトプットの必要性）：実利があってこそその「教養」

## 日仏「総合」比較

- 日本の総合学習：統合教授（樋口勘次郎）、合科学習（木下竹次）、総合教授、生活綴方など、初等教育での20世紀初頭からの蓄積を背景として発展（中西 2023）
- 私と社会のかかわりにおける「総合」（下からの総合）  
遠山啓：「観」の学習（世界観や人生観の涵養）としての総合学習
- フランスの哲学教育：初中等教育の知識の統合・横断を哲学という伝統的な知の領域を通じて行う（上からの総合）
- 「思考の型」の習得、概念と論理の自己運動、「私」抜きの普遍的言説への志向、階級上昇のための必須のツール

## おわりに

- 日本とフランスの比較：優劣ではなく、「総合」に対する異なる思想の内在的論理を読み解く必要性
- 補助線としての異質な「総合」（「総合的な探究の時間」における課題はフランスの哲学教育にとっては課題ではない）
- 高大接続における課題：「総合的な探究の時間」でどのように学んできた学生を大学は受け入れることになるのか？
- 大学における「探究」は、いかなる意味で「総合的な探究の時間」と地続きであり、いかなる意味で断絶しているのだろうか？

## 参考文献等

- 伊藤実歩子編（2023）『変動する総合・探求学習 欧米と日本 歴史と現在』大修館書店
- 坂本尚志（2022）『バカロレアの哲学－「思考の型」で自ら考え、書く』日本実業出版社
- 石井洋二郎編（2023）『リベラルアーツと自然科学』水声社
- 文部科学省（2017）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』
- Ministère de l'éducation nationale (2019) « Programme de philosophie de terminale générale », *Bulletin officiel spécial n° 8 du 25 juillet 2019*.
- 「バカロレアに挑戦してみた！～弁護士が挑むバカロレア試験??」（弁護士三輪記子のYouTubeチャンネル）  
<https://www.youtube.com/watch?v=HiQ5wTmiBtY>